

Seed to Table ~ひと・しぜん・くらしつながる~

活動報告

第一号 [2010年3月発行]

会員の皆様へ

Seed to Table (略STT)が活動を開始してから8ヶ月が経ちました。設立後の不安定な時期に、日本やベトナムの皆さん、そして他国の方にも様々な形でご協力・ご支援を賜りました。特に会員の皆様には、設立したばかりの実績のない組織にご理解を賜り、会員として応援してくださり、本当にありがとうございます。とても勇気付けられたと同時に改めて「人と人の関係」の大切さを認識致しました。

さて、短い期間ではありますが、実施した活動について報告をさせていただきます。また、活動を通じて出会った素晴らしいベトナムの人々やベトナムの時事などもご紹介させて頂きたいと思います。今後もゆっくりではありますが、一歩一歩、確実に歩みを進めて行きたいと思います。どうぞ末永くお付き合い頂けますようお願い申し上げます。

春を越え初夏のようなハノイより
Seed to Table代表 伊能 まゆ

これまでの歩み

2009年 5月 活動立案のための調査実施(ベトナム北部・南部、6月中旬まで)

2009年 7月 Seed to Table~ひと・しぜん・くらしつながる~始動

2009年 8月 ホームページ開設。活動立案のための調査実施(ベトナム北部・南部、9月末まで)

2009年10月 トヨタ財団様から助成決定(在来米の復元・記録事業)

2009年11月 ベトナム北部ホアビン省で在来米の復元・記録事業を開始
ベトナム南部ベンチェ省で実施されたアヒル水稲同時作の評価ワークショップに参加

2010年 1月 ホアビン省で在来米についての調査開始、東京都にNPO法人申請

2010年 2月 合鴨農法を体系化された古野隆雄さんご夫妻とメコンデルタの農家との交流会を実施

2010年 3月 ホアビン省で環境に関する意識向上を図るためのイベントを開催

【講演させて頂いた機関・学校】 横浜隼人高校、上智大学、Terra Madre Japan (Slow Food Japan主催の会議)、アメリカン・スクール・イン・ジャパン、FUJI基金総会、生物多様性JAPAN

【交流会などの企画・実施に協力させて頂いた大学】 早稲田大学、筑波大学、立教大学大学院

活動報告

在来の稲の復元・記録事業

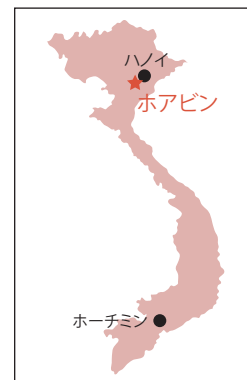
2009年11月よりトヨタ財団様の支援を受けて開始しました。対象地域はベトナム北部ホアビン省タンラック郡です。11月にタンラック郡人民委員会で開催したキックオフ会合にはタンラック郡内24の村と町の代表、農業関係者、テレビ局など49名が参加しました。

2009年は気候も暑く、病害虫がたくさん発生し、タンラック郡内の稲作面積の約35%が不作となりました。不作になったすべての面積及び被害がひどかった水田のほとんどで、タンラック郡内の農業物資サービス所、或いは市場で購入した中国産の改良種が利用されていました。このことから、各村の代表やタンラック郡農業室スタッフの在来の稲への関心が高まり、事業対象村である、ナムソン村、ディックザオ村、フークオン村の他にも6村ほどから事業に参加したいという希望が出されました。また、タンラック郡農業室や植物防疫所も技術面及び政策的に村人を支援していくことになりました。

さあ、これから各村でキックオフ会合と技術研修を始めようという時にハプニングが起こりました。在来の稲の復元に関心を持ち、実践をしていきたいと表明していたフークオン村から、参加しない、という意向が村の副主席(副村長のような役職です)のチョンさんから打診されたのです。これには私も驚き、詳しく事情を聞いてみると、村人の意向は「2009年が不作だったため、2010年は確実に収穫を得たい。そのためには高収量が見込める種を購入して植えたい」ということでした。村人がこうした意見を持っている以上、無理強いをすることはできません。

そこで、キックオフ会合で「私達も参加したい」と表明していた村のうち、在来の稲が多く残っており、村人と村のリーダー達が「在来種を植えたい」という「思い」とそれを裏付ける具体的な背景や理由があること、そして、タンラック郡農業室や植物防疫所の意見などを勘案し、フーヴィン村に決定しました。

11月後半から12月にかけて、各村でキックオフ会合を開催しました。ナムソン村では73名、ディックザオ村では87名、フーヴィン村では61名の村人が集まりました。その後、ナムソン村で8名、ディックザオ村で5名、そしてフーヴィン村で5名の農家が在来の稲の復元に取り組むことになり、技術研修を行いました。タンラック郡植物防疫所のフンさんが技術の説明を行った他、すでに在来の稲の復元を実践し、成果を挙げているタインホイ村の2名の村人に経験を話してもらいました。参加者は復元する在来の稲の種類を選定し、播種に備えました。



タンラック郡でのキックオフ会合の様子。[2009年11月]



ディックザオ村で経験を話しているタインホイ村のトウアンさん。



フーヴィン村のタオさん宅。5種類の在来の稲を保管している。